

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

すべての子どもが安心して学び 大切にされる教育を実現しよう



開会あいさつをする
岩田会長

6月8日、大阪の障害児教育をよくする会総会が開催され、会場とオンライン合わせて38人が参加しました。2025年度の活動方針・予算案・総会ラピール・役員体制が承認されました。学習会では、原田文孝さん（元特別支援学校教員・NPO法人ささゆり会代表）が、「障害児教育に期待すること―障害児の親として、元教員として、生活介護の実践者として」と題して講演をおこない、参加した父母や教職員で学び合いました。

障害のある子どもたちの よりよい教育のために力をあわせよう

第37回大阪の障害児教育をよくする会総会



総会アピールを
提案する大西新会長

開会あいさつの中で会長の岩田美穂さんは、「知的障害支援学校の『過大・過密』化は悪化し、『長時間通学』『圧縮学級』『いびつな通学区域割』など、劣悪な学習環境におかれている。そのような中、あきらめずに運動して、四條畷校の本校化や新校整備を実現してきた。子どもたちや父母の願いを形にするために声を上げ続けましょう」と呼びかけました。

来賓の石川たえ府議会議員（日本共産党）は、「支援学校の新校整備等の教育や福祉など、本当に必要なところにはお金をかけずに、万博関連予算にはつぎ込んでいく。

各地域のとりくみ・交流では、『議員にはたらくかけ市議会で意見書を採択した』『『過大・過密』がすすみ、子どもがしんどくなっている。子どもたちが安心して学べるよう新校整備を』『支援学級が適切に設置されず、子どもたちにしわ寄せがいく。学級定数改善が必要』『鶴見につくる会を発足させた。地域の声を集めてよりよい学校をつくりたい』など、父母や教職員のさまざまな思いや地域でのとりくみが報告されました。

自立とは助け合って生きていくことをめざすこと

後半の学習会では、原田文孝さんに講演いただきました。原田さんは、生活指導について、「食事文化、排せつ文化、おしゃれの文化といった生活文化を学ぶ学習であり、文化を学ぶつつ、能力を獲得し、人格を豊かにすることをめざす学校教育の重要な分野」とであると語りました。

また、講演の結びには「人は脆くて、傷つきやすく、弱いから互いに助け合って生きていかねばならない。今は、強く、たくましい存在になることを求められているが、自立とは、一人で生きていくことをめざすことではなく、助け合って生きていくことをめざすこと。他者に依存できる力、他者を思いやる力を豊かにすることが求められる」と語りました。



問題行動は発達芽 ミニ実践交流会

7月12日、「ミニ実践交流会～みんなで考える教育のつどいプレ企画～」が、たかつガーデンにて開催されました。13名が参加し、実践をもとに学び、交流しました。助言者として宮本郷子さん（立命館大学非常勤講師）が参加しました。

富田林支援分会の山本さんが「自傷のある児童への支援方法について」の実践を報告しました。宮本さんは「問題行動は発達芽」「発達の視点と共

感的視点をもって子どもをみることの大切さ」を話されました。

参加者からは、「他の先生方の実践や悩みを聞くことができて良かった」との声が寄せられました。

8月23日に「みんなで考える教育のつどい2025」がたかつガーデンで開催されます。ぜひ、皆さんご参加ください。



実践報告をもとに
交流する参加者

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス: fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の ひしひし

参議院選挙が一週間後に迫った日曜の夜、このコラムを書いていきます。筆者は、選挙期間を通して、「日本の未来がかかった選挙。積極的な参政権の行使を」と知人・友人に呼びかけています。とりわけ、一部勢力が異質で時代錯誤もはなだしい主張を行っていることに重大な危機感をもち、周りの人々に「民主主義や人権を踏みしめる主張が許されてよいのでしょうか」と訴えてきました。

それにしても信じられない暴言・暴論の数々。「日本人ファースト」「仕事に就けなかった外国人が万引き」「高齢の女性は子どもを産めない」などの発言。戦前の弾圧立法「治安維持法」を正当化。公約には「終末期医療の全額自己負担」があり、「(天皇は)元首として国を代表」という憲法草案を打ち出しています。また「発達障害は存在しない」の主張もあり、障害の特性への理解と支援を否定しています。筆者の知人・友人から強い反響も返ってきています。「本当に恐ろしいこと」「日本はどうなっていくのか」などの声。また、「人間にファーストもセカンドもない」「女の価値を産む産まないで決めるな」というプラカードを立てて抗議する市民の行動も広がっています。本号が発行される時には、参議院選挙での国民審判の結果は明らかになっています。どのような結果であったとしても、「排外主義」を許さないたたかいは、日本社会の民主的な前途のために避けられない課題となります。筆者は、以前次の短歌を発表しました。

「コンビニ」のレジの女性が巻くヒジヤブ

制服に合わせた色フルー

私の町でも毎朝、老健施設やコンビニに出動をする外国人の姿を見かけます。休日には、外国人グループが公園にくつろいでいます。在留外国人はいまや376万人にのぼり、日本社会の支え手です。日本人の不満を外国人などに向けるような「差別・分断」を許してはいけません。ともに連帯しましょう。(S)

大障教定期大会 発言ダイジェスト(その4)

学校看護師の待遇改善・制度改善が必要

平野支援分会 矢野代議員



支援学校に看護師が配置され医療的ケアを実施することにより、児童生徒にとって安全で安心な教育環境が整います。医療的ケアを通して、より良い教育に貢献できているということは、学校看護師である私自身のやりがいです。また、私は医療的ケア児や教員との関わりを通して学び、信頼関係をつくっていくことを心がけています。医療的ケア児へのケア実施や体調管理だけでなく、看護師としての役割を把握しながら、医療的ケアを通して児童生徒の学びに向かう心身の状態を整えることを大切にしていきます。

平野支援学校では、常勤看護師の役割として、放課

後の医療的ケア安全委員会の参加、緊急対応シミュレーション研修の参加、現場演習、非常勤看護師と教員との連絡・調整などの仲介、看護師のスケジュール調整等を担っています。支援学校に不可欠の職である学校看護師が安心して働き続けられるため、待遇改善・制度改善が必要だと考えています。

一つ目に、常勤看護師の雇用を安定させることです。高度化、多様化する看護師対応の医療的ケアが増加していく中、常勤看護師は現在定数内配置です。半年更新で、次年度の体制、年度単位での看護師の人員変動があるため、雇用継続への不安が大きい状況です。それにもかかわらず、失業保険が加入不可であり、公務員でもないのに副業も不可になっています。

二つ目に、泊行事についてです。常勤看護師に時間

外手当の申請はありますが、手当支給はわずかです。常勤看護師には、教員に支給される特殊勤務手当の申請はありません。食費の負担が大きく、持ち出しを少なくするため泊行事中の食事の一部を削って持参しています。外部より引率する看護師を見つづけることが困難

思い出深い学生時代、納得のいく進路選択を

泉南支援分会 藤田代議員

今の学校に勤務して11年。10年間は学年の進路係として、進路指導主事として今年で2年目。もうすぐ干支をひとまわりしそうです。最近は法定雇用率の引き上げや企



業の社会貢献活動などもあって、勤務するこの泉州地域でも生徒たちの現場実習や就労に追い風が吹いているように感じます。また校区内の障がい福祉サービスの事業所の数も、勤め始めたころと比較すると3倍に増えました。企業就労も障がい福祉サービス事業所の利用も、選択肢が増えて喜ばしい反面、生徒たちや保護者が「どこを選べばいいか」と迷って相談に連れられ



東大阪市議会が学校建設を求める意見書を決定

八尾支援分会 岩崎代議員

いびつな人数構成が本校の教育に多くの支障をきたしています。定数法では、高の学級数が減ると小・中の学級数が増え、それに合わせた教員が増えませんでした。したがって、本校では深刻な教員不足が生じ、教室不足と相まって圧縮学級が常態化しています。小4では10人学級が存在します。あつてはならないことです。

今年度、高等部の教員減で、家庭・音楽等の教員が確保できず、中と高を往來する教員が必要となったことが主な理由で、中の時間を高に合わせるために教育課程の大幅な変更がなされました。突然の時間割の変更は、中学部生徒(特に重度)に混乱を与え、中学部の生徒に合った時間割なのか?という疑問を多くの教員が持っています。

八尾支援の生徒数は423人で、昨年度より35人の大幅増です。小・中合わせて39人の急増、逆に高はマイナス4人と生徒減が続いています。「過大・過密」と、この小・中・高の

最近明らかになったのが、四條畷校本校化に伴う改修工事の影響です。本校の東大阪市在住の中学部生徒の一部は、卒業後、四條畷校に進学します。それ自体、大きな環境変化を伴い生徒・保護者には大きな負担なのですが、例えば現中2ならば高1・2は四條畷校の仮校舎、高3は新校舎と学ぶ

場が変わります。四條畷校の本校化は喜ばしいことです。しかし、保護者説明会では、何度も校舎が変わることに強い懸念が出されました。

運動会や発表会や修学旅行、そして毎日の授業を楽しみに登校してくる子どもたちが、思い出深い学生時代を過ごして、かつ納得のいく進路選択ができるよう精進していきたいです。

これら問題を解決するには、東大阪市に学校建設を行うしかないのは明白です。昨年度、大障教・「東大阪の障がい児教育をよくする会」と共同して独自署名を展開し、1万8694筆を集め、東大阪市議会が全会派一致で学校建設を求める意見書を決定する大きな前進を勝ち取りました。

これら問題を解決するには、東大阪市に学校建設を行うしかないのは明白です。昨年度、大障教・「東大阪の障がい児教育をよくする会」と共同して独自署名を展開し、1万8694筆を集め、東大阪市議会が全会派一致で学校建設を求める意見書を決定する大きな前進を勝ち取りました。

